

令和2年1月17日

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 (WDCJ)
ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社 (BSD)

第33回 ディズニー・チャンネル/ディズニーXD 放送番組審議会議事録

- ・日時 令和1年12月2日(月) 14:40～15:30
- ・場所 東京都港区虎ノ門1-23-1
BSD 27階会議室
- ・出席者 審議委員総数 8名
出席審議委員数 7名
書面参加委員数 1名

(出席委員名)

- 委員長 山田 顕喜 (日本大学芸術学部映画学科元教授)
- 副委員長 前田 耕作 (生涯教育新聞社代表)
- 委員 木下 美子 (元青山学院初等部英語教諭)
- 委員 土屋 礼子 (朝日新聞社 執行役員 企画事業担当 兼 企画事業本部長)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 藤田 興彦 (公益法人児童育成協会理事長)
- 委員 三枝 幹夫 ((株)オリコンME WEB編集本部 ORICON NEWS 編集部 編集長)

(書面参加委員名)

- 委員 阿部 京子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)

ディズニー・チャンネル

(衛星基幹放送事業者：BSD、番組供給事業者：WDCJ)

ディズニーXD

(番組供給事業者：WDCJ)

- 小林 信一 (代表取締役社長、BSD)
- 藤 慶英 (メディア戦略 シニアマネージャー、BSD)
- 伊藤 由起 (編成、WDCJ)
- 竹内 文吾 (編成 マネージャー、BSD)
- 待鳥 雅之 (編成 アシスタント・マネージャー、BSD)

- ・議題 (1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD の番組編成について
(2) 審議番組「101匹わんちゃんストリート」
「マーベル スパイダーマン」について

- ・議事内容

(以下、* : 委員からの意見・質問、→ : ディズニーの説明・回答)

(1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD の番組編成について

- ディズニー・チャンネルでは今月は、「モアナと伝説の海」を初放送する。
- 「ディセンダント3」の字幕版を放送する予定で、ミュージカル仕立てのアニメーションも幾つか放送する。
- 今月14日(土)には以前ご紹介した「アバローのプリンセス エレナ」の第3シーズンが始まるため、特別編成を組んでいる。
- ディズニージュニアの時間帯では、ディズニージュニアチャンネルとは別に、こちらも以前ご紹介した「パグパグ・アドベンチャー」のクリスマス・エピソードを放送する。
- 今月は映画「スター・ウォーズ」新作公開に伴って、ディズニーXDでは「スター・ウォーズ レジスタンス」の特別編成を21日に組んでおり、第1シーズンを一挙放送する予定。
- 今回の審議対象となっている「マーベル スパイダーマン」については、昨日1日(日)に特別編成を実施している。こちらの作品は現在夜の時間帯にて放送中。

(2) 審議番組「101匹わんちゃんストリート」及び「マーベル スパイダーマン」について

- ・「101匹わんちゃんストリート」

放送概要 :

2019年7月から放送開始・レギュラー枠は土日の10:30~と15:30~。

約22分(11分×2話構成)×24話~

番組内容 :

15匹の子犬を持つディランのママと、15匹の子犬を持つドリーのパパが一緒になり、さらに15匹の子犬が誕生。その上、レスキューシェルターの犬や野良犬を次々に家族に迎え、今では総勢101匹のダルメシアンが家族としてロンドンの家で暮らしている。忙しいパパとママに代わって兄弟の子守りを任されている年長のドリーとディランを中心に、子犬たちを巡る騒動や冒険を描いた楽しいコメディ・アドベンチャーシリーズ。

→このシリーズは、1961年制作の映画「101匹わんちゃん」からヒントを得て製作した新しいアニメーション・シリーズ。作品のテーマとしては、子供たちの育みや、様々な個性が集まる大家族の中で、それぞれが自分の居場所を見つけたり役割に気付くことなどが挙げられる。

- * ドット柄のたくさんのダルメシアンが、かなりのスピードで動いているのが可愛い。
- * 子育ての大変さが、ドット側を追いかけられているうちに、楽しさに変わってしまう内容。
- * ダルメシアンたちが、「人間を飼うのは難しい」とか「勉強になる」とか、いつも人間が言っていることを動物に言わせて皮肉っぽくて楽しい。前作を見ているので今風の背景、街並みが斬新。言葉遣いや色合いも今どきっぽくて、面白く見せてもらった。
- * 101匹モブシーンを定番として使っていると思われ、テンポは小気味よかったが、1961年の映画「101匹わんちゃん」は何と云っても最高峰の作品。モブシーンも滑らかで、それぞれの表情をセルアニメーションで表現しているのと比べてしまうと、この作品はカートゥーンっぽくて少し違和感もあった。タイトルが全く別だったら楽しめたと思う。「101匹わんちゃん」という大看板を背負うのは、それなりの覚悟が必要だと思う。
- * 「101匹わんちゃん」と思って見ると違和感。ハートウォーミングな感じがあれば、ちょっと違ったと思う。若干騒々しいのも含めて、現代の雰囲気は出ている。これが「101匹わんちゃん」じゃなければ、すごく楽しくていいと思った。だが、若い世代の人にとっては原作はもしかしたら全然関係なくて、これは楽しい作品なのかもしれない。
- * 人間を飼っている犬という視点は面白く、チャレンジングな作品と言える。この作品は、毎回ずっと犬側から見た人間について、何十話も作ると思うので、それだけではなおざりになってくることもあるので、その時にどう立て直すのか楽しみでもある。
- * 内容には感動した。違うドタバタで、原作の映画と比べると、擬人化されすぎているのかな、という感じもする。今の子供がどう受け止めるか、すごく興味がある。

・「マーベル スパイダーマン」

放送概要：

2017年9月から放送開始。レギュラー枠は土日 21:30～と平日 28:00～。

各 22分×52話～

番組内容：

15歳の高校生、ピーター・パーカーは、ある日特殊なクモにかまれ、スパイダーマンとしての特殊能力を持つように。とまどいながらも、スパイダー・センスで危険を察知、特殊能力で街や友だちを悪の手から守るために戦う。普段はスパイダーマンであることをかくし、普通の高校生として学校生活を送っているが、親友が悪に染まっていくのに気づき…。

→シリーズの見どころは大きく4つほどある。まずはスパイダーマンのアクション・シーン

が満載であること。次に、スーパーヒーローとしての力を持つことを除けば普通の15歳の高校生でしかない主人公のピーター・パーカーが親近感を持ちやすいキャラになっている点。三つめは原点回帰という意味で、原作コミックに近い設定となっている点で、四つめは、スパイダーマン誕生のエピソードが見られる点で、ピーターが自分の顔を隠すマスクを選んだり、スパイダーマンになりたての頃のピーター・パーカーの姿を見ることができる。

- *ある日突然、特殊能力が使えると知ったら、人を助ける側に回るか、人を支配したくなるか、どうなのだろう。ヒーローにも苦悩があるところが、この作品の魅力だと思う。
- *スパイダーマンなので、マーベルが好きな人には生い立ちからよく分かって面白かった。自分は「アイアンマン」が好きなので、ピーターがアイアンマンのマスクをかぶっているシーンが特に好き。力を手に入れるまでの展開が非常に面白かった。ひとつだけ不自然に思えたのは、クモに刺された時にピーターが冷静すぎて、本来ならすごく動揺すると思う。刺されたら力を得て、もう少し悩んでも良かったのではないか。スパイダーマンは暗い部分もあるので、「大いなる力には大いなる責任が伴う」というセリフが全てだと感じた。
- *映画のイメージが強いが、原作コミックに近いと聞いてなるほど、と思った。新鮮な発見があったので、最初から見ると、ファンになって次の展開に期待するようになるかも。ターゲットが小学生男子だが、一人称で話すピーター・パーカーの高校生活のストーリーにどこまで没入できるのか、少し気になるところ。
- *自分の世代としては、「スパイダーマン」はアメコミ原体験の作品。アニメ版のスパイダーマンが大ブームで毎朝放送していた記憶がある。サム・ライミ監督版で実写になり浸透したが、アメコミの「スパイダーマン」の方がファーストタッチで、アニメ版が一番しっくりくる。原作にも忠実で、肌触りがいいと感じる。
- *「スパイダーマン」がアニメになって本当に嬉しいが、この作品は、最初からスパイダーマンが見ている世界、スパイダーマンが理解しているままの社会がそのまま広がってしまっていて、対峙している感じが足らなかった。
- *もうすぐ6歳の孫が、一番興味があるのがスパイダーマン。大学生になる孫娘も映画を見ていて、スーパーヒーローの中では「スパイダーマン」が一番好き。気楽に面白く見られて楽しめた。子どもはわかるところはわかるので、興味深かった。



- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和1年12月2日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で、活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：
令和2年1月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上